

## 国語科学習指導案

1 単元名 自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつについて話し合おう 「お手紙」  
～気持ちのこもった お手紙を書こう～

2 単元目標

○ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中でつかうことで、語彙を豊かにすることができる。

＜知識及び技能（1）オ＞

○ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

＜思考力、判断力、表現力等 C（1）オ＞

○ 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。

＜学びに向かう力、人間性等＞

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（1）オ	「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C（1）オ	粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って言語活動に取り組んでいる。

4 単元について

（1）本単元で扱う言語活動について

本単元では、学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」を具現化し、登場人物の心情について叙述や自分と比べて想像したことを基に、自分の考えを登場人物に伝えるために手紙に書くことを、単元を貫く言語活動として位置付ける。

本単元で取り扱う教材文は「お手紙」をめぐる登場人物の行動によって、二人の心情が「ふしあわせ」から「しあわせ」な気持ちへと変容していく様子が描かれている。手紙を書いたりもらったりは児童にとっても身近なものであることから、これまでの自らの生活経験と物語の内容を結び付ながら読みやすい物語である。また、物語の中には登場人物の「かえるくん」が親友である「がまくん」を思いやる姿がいくつか描かれている。その発言や行動に関する叙述に注目することで相手を思いやる心情を想像することができ、目標に沿った読みができるようになる。

児童一人ひとりが「がまくん」と「かえるくん」それぞれの登場人物の心情を想像するための手立てとして、心情曲線（以下「気持ちグラフ」と呼ぶ）を取り入れる。場面での登場人物の心情についてこれまでの自分の経験から想像するために、どれくらい嬉しいのか、悲しいのかなどといった度合いを考えながら「気持ちグラフ」の上下に表していく。また、児童が教材文の叙述に基づいて登場人物の心情を想像し、表すことができるよう、「気持ちグラフ」の上部に教材文を載せる。登場人物の行動や心情を想像するための根拠となった言葉や文に印をつけさせ、その下部に登場人物の心情の具合を丸シールを使って点として「気持ちグラフ」に表す。これにより、児童は自然と教材文に書かれている登場人物の行動と心情を対応させながら、登場人物の心情について想像することができるであろう。「気持ちグラフ」を使って考えた登場人物の詳細な心情や自分の経験について付箋に書かせ、プリントに貼っておく。後に登場人物に宛てた手紙の内容を決めたり書いたりするとき、自分の考えを振り返ったり整理したりすることができるだろう。以上のような「気持ちグラフ」の操作や作成によって、物語の展開に沿って登場人物の心情について自分の経験と結び付けながら

考え、物語の感想の内容を練ることができると考えた。二学年では「折れ線グラフ」は未習事項であるため、気持ちの度合いを「点」、心情の変化の様子を「線」として表すことを適時指導する。

「気持ちグラフ」は児童一人ひとりのこれまでの経験や考えによって表され方が異なってくるため、児童は自然と友達がどのように「気持ちグラフ」を表したか興味を持つだろう。そこで自分の「気持ちグラフ」について、なぜそのように表したのか伝え合う時間を適時設けていく。「気持ちグラフ」の表し方について交流することで、自分の考えを整理したり物語や登場人物への新たな視点に気付いたりすることができるだろう。

学習のまとめとして、「かえるくん」や「がまくん」に宛てて、手紙を書く活動を児童に提案する。手紙は物語の中でもキーアイテムとなっているため、「書いてみたい。」という児童の意欲を喚起しやすいと考える。自分で作った「気持ちグラフ」を見ながら学習を通して考えたことを振り返ることで、児童が共感した登場人物宛ての手紙を書くことができるだろう。物語中の登場人物の行動や心情にふれた手紙を書くことで、物語を読んだ感想が自然と反映されると考える。

この一連の言語活動を通して、児童が主体的な態度で学びに向かい、対話的な学びによって物語や登場人物への理解や愛着を深めていこうとする姿を目指す。

## (2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領の「C 読むこと」の知識及び技能の内容「オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること」、思考力、判断力、表現力等の内容「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

本単元では初めに教材文を読んで児童が持った疑問や気付きから問いを作り、学習計画を立てて学習を進めていく。児童が立てた問いに沿って物語を読み進めていくことで、自ら課題を解決しようとする意欲を持って学習に取り組むことができるだろう。

これまで国語科や道徳の学習、読み聞かせなどの機会に「自分だったら」という視点を持ちながら文章を読む経験は繰り返し行ってきた。このような自分と登場人物を比べる読み方は、登場人物の心情について詳細に想像するための手段の一つであり、感想のもち方として定着させたい。叙述に注目させたり「気持ちグラフ」を使って考えたりする活動を通して、登場人物の心情や行動について「自分だったらこう思う」「自分だったらこう言う」と考える力を身に付けさせていく。

## (3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

### ○「ふたりは○○」シリーズ読み

本教材「お手紙」は「ふたりは ともだち」の一編である。この「ふたりは○○」シリーズでは「がまくん」と「かえるくん」の過ごす日常描かれており、二人の温かみある友情が伝わってくる内容となっている。読書環境を整えたり読み聞かせをしたりすることで、各段落での出来事と関連した内容の物語を読んでおくことで、更なる読書への意欲を喚起させたい。また、本教材「お手紙」と似た内容の展開となっている物語を意図的に読み聞かせることで、学習中の「がまくん」と「かえるくん」の人物像や二人の関係性を読み取るための補助教材とする。日常的に「がまくん」と「かえるくん」に触れ合う機会を設けることで教材や登場人物への愛着を持たせ、学習や読書への意欲につなげる。

### ○「気持ちグラフ」に自分の考えを表すため練習

道徳の学習で心情メーターを取り扱ったことはあるが、経験は少なく、自分の考えを表すことに慣れていない児童も多い。道徳やクラスタイムの時間を活用して二項について自分の考えをメーター表す機会を設けておく。微妙なニュアンスを表現できたり、自分や友達の考えが明確に表せたりなど、その良さを感じさせておくことで、学習で活用するための素地を作っておく。

5 指導計画（全10時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て◇評価（評価方法）	並行読書 「ふたりは○○」シリーズ
1	1	○挿絵を見て、物語の展開について想像する。 ○物語を読んで、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の初めと終わりの挿絵から登場人物の心情を想像させ「気持ちグラフ」に点で表し、その変容を読み取っていく意欲を高める。</li> <li>・物語を読んで気付いたことや疑問に思ったことを記述し、次時につなげる。</li> </ul> ◇教材文を読んで物語について想像したり考えたりしている。【態度】（発言）	
	2	○児童の気付きや疑問を基に問いを作る。 ○単元の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読んで疑問に思ったことやよく知りたいことをについて話し合うことで、問いを持たせ、主体的に課題を解決しようとする意欲を高める。</li> <li>・登場人物について想像するために、自分の体験と結び付けて読むことへの必要感を持たせる。</li> </ul> ◇見通しをもって学習を進めていこうとしている。【態度】（発言・記述）	
2	3	○グループに分かれて物語を場面分けする。 ○役割読みをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手紙」をキーワードにして場面分けを行うことで、物語の全体像をつかむ。</li> <li>・「がまくん」と「かえるくん」役に分かれて音読をすることで、誰がどの発言をしているか押さえ、物語の展開を確認する。</li> </ul> ◇身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。【知・技】（発言・記述）	
	4	○問い①について、物語の叙述や自分の経験を基に想像したり話し合ったりし、考えを「気持ちグラフ」にまとめる。  かえるくんのやさしさをさがそう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の中のかえるくんの優しさが表れている行動について焦点をあてることで、それぞれの登場人物の心情の様子や変化について場面ごとに想像させる。</li> <li>・問いの基となる児童の疑問について「自分だったら」という視点をもたせながら想像させる。</li> </ul> ◇登場人物の様子や心情を想像し、感想を持っている。【思・判・表】（発言・記述）	
	5	○問い②について、物語の叙述や自分の経験を基に想像したり話し合ったりし、考えを「気持ちグラフ」にまとめる。  手紙がとどくまでの間、二人はどんな気持ちだったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるくんがかたつむりくんに手紙を運ぶことを頼んだ展開について焦点をあて、手紙を書いたり受け取ったりするときの心情について想像させる。</li> <li>・叙述にないことについて想像し、それについて話し合うことで、物語の読みの面白さを味わう。</li> </ul>	

			◇登場人物の様子や心情を想像し、感想を持っている。【思・判・表】（発言・記述）
	6	○問い③について、物語の叙述や自分の経験を基に想像したり話し合ったりし、考えを「気もちグラフ」にまとめる。  なぜかえるくんは手紙を書いたことを言ってしまったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるくんががまくんに手紙を書いたことを言ってしまった場面の前後の展開について焦点をあて、手紙に対するそれぞれの登場人物の心情について想像させる。</li> <li>・「気もちグラフ」の表し方に違いに着目させ、同じ物語を読んでも様々な感じ取り方があることに気付かせる。</li> </ul> ◇登場人物の様子や心情を想像し、感想を持っている。【思・判・表】（発言・記述）
	7	○問い④について、物語の叙述や自分の経験を基に想像したり話し合ったりし、考えを「気もちグラフ」にまとめる。  がまくんとかえるくんの気もちがいっぱいになったのはいつだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの登場人物の気持ちが高ぶった場面に焦点を当てることで、これまでの読みったことを振り返り、深める。</li> <li>・「気もちグラフ」を振り返ることで、叙述や自分の経験を基に物語の読み取りができたことを実感させる。</li> </ul> ◇登場人物の様子や心情を想像し、感想を持っている。【思・判・表】（発言・記述）
	8	○「がまくん」と「かえるくん」のどちらかに手紙を書くか決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを思いやった手紙を書くために、「気もちグラフ」を振り返る必要があることを意識させる。</li> <li>・交流を通して自分の考えや思いを整理し、手紙に書きたい内容を絞る。</li> </ul> ◇粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って言語活動に取り組んでいる。【態度】（発言）
	9	○「がまくん」と「かえるくん」のどちらかに手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気もちのこもった手紙をかく」という目標を確認することで、教材文や「気もちグラフ」を見て、物語や登場人物について自分が考えたことを振り返らせる。</li> </ul> ◇文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。【思・判・表】（記述）
3	10	○学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙を読み合い、学習に関して感想を述べることで、達成感をもたせたり友達を認め合う気持ちにつなげたりする。</li> </ul> ◇学習を振り返り、身につけた力を今後の学びにいかそうとしている。【態度】（発言・記述）

6 本時の指導

(1) 本時の目標

○登場人物の様子や心情を想像し、感想を持つことができる。

【思・判・表】

(2) 本時の展開 (7 / 10)

学習活動	支援や指導の手立て ◇評価
<p>1 児童の疑問や気付きについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくん、手紙をもらえてよかったね。</li> <li>・手紙はまだ届いていないのに、笑って待っているね。</li> <li>・かえるくんも笑っているね。</li> <li>・かえるくん、手紙を出したことを言っちゃったけどがまくんはうれしかっただろうね。</li> </ul> <p>2 問いを確認する。</p>	<p>○物語を読んで感じた疑問に戻すことで、どの場面の文章を読めば解決ができそうか見通しを持たせる。</p>
<p>がまくんとかえるくんの 気もちがいっぱいになったのは いったらう。</p>	
<p>3 「かえるくん」「がまくん」のどちらについて考えるか決め、気もちがいっぱいになったときを考える。</p> <p>4 「かえるくん」「がまくん」チームに分かれて、気もちがいっぱいになったと思うときについて伝え合う。</p>	<p>○どちらの登場人物について考えるかネームプレートを黒板に貼らせ、立場を明確にさせる。</p> <p>○「気もちグラフ」を使って気持ちが高ぶったと思う場面にシールを貼ったり度合いを調整したりすることで、登場人物の心情について詳細に想像させる。</p> <p>○気持ちが高ぶったときの詳細な登場人物の心情や自分の経験を付箋に書かせ、考えたことを残させる。</p> <p>○「気もちグラフ」の表し方にずれが出ていることを示し、交流の必要感を持たせる。</p> <p>○迷っている児童には、交流での友達の意見を参考にすることを伝える。</p> <p>○シールの貼り方にずれがある児童同士でグループを作り、なぜそのポイントにしたかを伝え合えるようにする。</p> <p>○友達の意見を聞いて考えが変わった場合は、シールを貼り直してよいことを伝える。</p>
<p><b>かえるくん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙を書いているときじゃないかな。絵を見ると笑っているように見えるし、お手紙書くのって楽しいから。</li> <li>・「とてもいいお手紙だ。」と言われたところじゃないかな。ほめられるとうれしいよね。</li> <li>・がまくんが喜んだ姿を見たときじゃないかな。そのためにかえるくんは手紙を書いたと思うよ。</li> </ul>	<p><b>がまくん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるくんがお手紙に書いたことを聞いた時が一番幸せなんじゃないかな。「親友」ってうれしい言葉だよ。</li> <li>・げんかんで、お手紙が来るのをまっていたときじゃないかな。「とてもしあわせな気もちで」って書いてあるよ。</li> <li>・お手紙をもらったときがやっぱり一番うれしかったと思うよ。ずっと待ってたからね。</li> </ul>

<p>4 自分の「気持ちグラフ」を整理する。</p>	<p>○自分で考えたことや友達の見解を基に「気持ちグラフ」の点を調整したり心情について付箋に書いたりすることで、考えを整理する。</p> <p>○点を線で結ばせ、心情の変容の様子についても考えを持たせる。</p> <p>◇登場人物の様子や心情を想像し、感想を持っている。【思・判・表】（発言・記述）</p>
<p>5 本時の感想を述べ、学習のまとめをする。</p>	<p>○叙述を基に考えたことや友達との交流で考えが深まったことを取り上げ、めあてに沿った学習ができた達成感を持たせる。</p> <p>○「気持ちグラフ」に自分の考えが表されていることを確認し、次時の活動の意欲を喚起する。</p>